

いしづち

2025.7

July

No.165



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



ダブルバインド
建築パース製作実践編1) 実務に役立つ実践テクニック
道後温泉の湯釜 神の湯の湯釜編①

1	ダブルバインド	道上壯/VuA ……①
2	自分磨きへの道しるべ 建築パース製作実践編1) 実務に役立つ実践テクニック	松山支部 尾崎 光高 ……③
3	道後温泉の湯釜 神の湯の湯釜編①	一級建築士 野本 健 ……⑤ 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹 ……⑤
4	委員会報告 愛媛県建築士会・建築士事務所協会合同親睦ゴルフコンペ報告	総務・企画委員会 委員長 井上 竜治 ……⑧ 株式会社イオタオーエーシステム 渡邊 将幸 ……⑧ 総合資格学院 松山支店 桑原 美香 ……⑧ 令和6年度第4回愛媛県ヘリテージマネージャー養成講座を開催して 文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和 ……⑨ 大洲市蔵川三島神社調査報告 文化財・まちづくり委員会 委員 菅野 隆次 ……⑩
5	支部報告	今治市建築住宅課による「2025年4月施行 建築基準法・省エネ法改正実務セミナー」開催報告 今治支部 森 昇平 ……⑰ 今治支部総会報告及び令和6年度活動報告 今治支部 支部長 曾我部 準 ……⑱ 松山支部より 松山支部 支部長 花岡 直樹 ……⑲ 令和7年度伊予支部総会報告 伊予支部 支部長 窪田 博文 ……⑳ 西予支部総会報告及びセミナー開催報告 西予支部 支部長 山内 真一 ……㉑
6	お知らせ	令和7年度 第1回理事会概要報告 事務局 ……㉒ 第3回愛媛の景観写真コンテスト 募集のお知らせ 文化財・まちづくり委員会 ……㉔

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



透明水彩、紙

題：「三ツ畑田島」愛南町 サイズF/4

宇和海に浮かぶ高さ約40メートルほどの3つの小さな島「三ツ畑田島」は、足摺宇和海国立公園内にある象徴的な景観の一つです。付近はサンゴ礁や熱帯魚が豊富に生息し、ハマチの養殖なども行われています。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動を開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」收藏される
2015~17 愛媛新聞 冊子「アクリート」表紙画連載
2017 絵画教室やオリジナルブランド額工房「飾りチエルカ」を設立
「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動
現在、現代日本美術会 会員/審査員

ダブルバインド

道上壯 / VuA

日本の建築を取り巻く状況は、極端な二面性を持っている。世界のトップレベルからボトムレベルまで、様々なものがあり、そして二極化している。建築、設計者、施工者、普通の人々。それぞれの両極端に挟まれたごちゃ混ぜの中で、僕たちは日々を過ごしている。

「建築」。日本には世界最古の木造建築がある。建立から1400年以上も建ち続ける法隆寺だ。1400年以上も存続する木造建築技術もさることながら、メンテナンスや補修を支える卓越した技術を持った宮大工がいることも特筆に値する。石に比べて腐りやすい木で造られながらも、現存してなおかつ、これからもずっと残り続ける建築。技術と文化の伝承のトップレベルが、法隆寺でもあるのだ。

それに対して、あっという間に消えてゆくものもある。僕が京都の設計事務所に勤めていた時のことだ。京都の北山通りのアパレルのテナントビル。先輩が担当した物件で、先輩と一緒に現場に出向いた思い出のある建築だ。竣工後、1年ちょっと過ぎた頃に、建物がもうないことを先輩から聞かされた。当時、バブルの崩壊が始まった頃で、土地・建物の所有者が土地を売るために建物を解体処分してしまったのだ。工事費1億円以上もかけたものが、ビジネスの経済原理で消えてゆく。ボトムレベルの末路の更地を、僕は見たことがある。

「設計者」。日本は世界的な建築家大国だ。建築の賞の中で、最も権威があると言われているプリツカー賞。最多受賞は、日本、日本人だ。1979年から始まったこの賞を、受賞年度別、受賞国籍別でデータ化してみると次のようになる。日本=8年度、9人。アメリカ=6年度、8人。イギリス=5年度、5人。フランス=3年度、3人。その他は、2年度以下、2人以下になる。建築文化の高い西欧のアメリカ、イギリス、フランスを抑えて、日本が世界のトップレベルの建築家を最も多く輩出していることは、非常に誇らしいことでもある。

それに対して、稚拙な設計者もいる。特に僕たち市井の設計者の中にだ。建築雑誌を見て真似をして、あたかも自分が考えたように振る舞ったり、以前設計したものを全くそのままリピートしたり、ちょっと変えて良しとしたり、丸投げして誰かにやってもらって事なきを得たりと、自分で労せず対価だけを得ようとする、デベロッパー的な力なきボトムレベルの設計者。僕も含めたこの輩たちが、世の中での建築の評価、普通の人々からの評価を押し下げていることに、反省ひとしきりの思いがある。

「施工者」。日本には世界最高水準の施工技術で造られた建築がある。東京のランドマークの一つである東京スカイツリーだ。この鉄骨造の電波塔・観光施設は、世界最高の溶接技術で組み上げられている。塔体を構成する37000もの鋼管パーツを、全て人が溶接で接合するという離れ業を成し遂げている。各種の試験で溶接の腕を確認された溶接工だけが担当している。3次元曲面を完璧に溶接するという、世界のトップレベルの日本の溶接技術者がいてこそその東京スカイツリーなのだ。

それに対して、施工者と呼ぶには、似つかわしくもない者もいる。工事費を安くあげるために手抜き工事をしたり、工期を間に合わせるために煩雑な施工をしたり、普通の人々には分からない専門的な部分で自己都合を優先させたりと、損得計算のそろばん勘定にだけ終始する施工者。大きな組織やメーカーであっても、個人の自営業者であっても、普通の人々から信頼と評価を得ない限り、生業への未来はないことを自覚しておく必要がある。

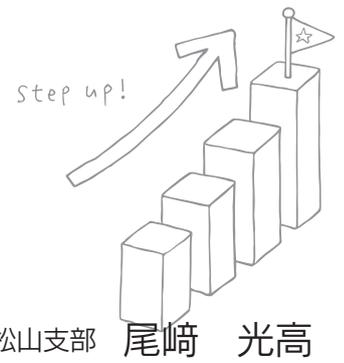
「普通の人々」。自らの意思で設計者を探し、費用が掛かりながらも、遠方でありながらも、建築家と呼べる人に自身の建築を依頼する人々がいる。ポストに入っているチラシではなく、TVのCMで見かける設計事務所でもなく、親戚や知人の紹介者でもなく、新建築や住宅特集やGAをリサーチして、自分にとって最も好ましい建築を提案してくれる人を見つける普通の人々。僕たちは眼中にないことを残念に思う反面、建築をととても大事に大切に考えて、トップレベルの建築家に思いを託すその姿勢には、頭が下がる思いがする。

それに対して、全く無頓着な人もいる。安ければ何でもいいとか、早ければ何でもいいとか、知っている人でいいとか、別に拘りもなく何だっていいと考えている普通の人々。建築が他のものよりも大切だと言うつもりはないが、高額なお金を払い、一生にそう何度もない建築の機会を、もう少し考えて欲しいという思いがある。日々ずっと目にして使ってゆく建築を、自分の思いや感覚にアジャストさせて欲しいという願いもある。

ごちゃ混ぜの両極の間で、あなたはどちら側に居るだろうか？ 僕は、どちらかが良くて、どちらかが悪いとは思ってはいない。僕たちは日々の生活の中で、理想と現実の間で折り合いをつけながら生きている。ある時は前者であったり、ある時は後者であったり、2つの間を揺れ動きながら、本意不本意に関わらず、その時その時で自分にとってベストの選択をしているはずなのだ。その決断を僕は否定する気はない。

「設計者」「施工者」「普通の人々」この3者のトライアングルの中に「建築」は生まれてくる。単純に考えれば $2 \times 2 \times 2 = 8$ 通りの建築が生まれてくる。ただし、実際はもっと複雑で、非常に多様で無限のバリエーションを奏でてくる。僕たちが、意識・無意識に目にして使っている建築は、3者のダブルバインド(2つの矛盾したメッセージ)から派生しているのだ。そして、そのダブルバインドは、人の強さや崇高さ、弱さや愚かさの表れでもあり、とても人間らしいものでもあるのだ。

世の中が豊かな時は前者が増え、世の中が貧しい時は後者が増える。今は、どちらの時代だろうか。



建築パース制作実践編 1)

実務に役立つ実践テクニック

松山支部 尾崎 光高

今回より、実務に役立つ実践テクニックについてご紹介して参りますが、その前に是非とも少しずつ取り組んで頂きたい事があります。

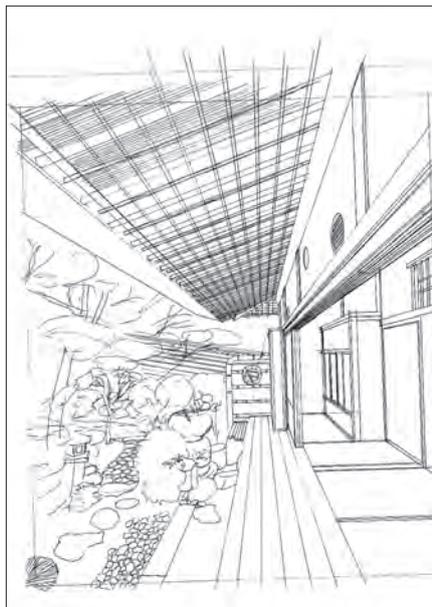
それは、皆さんの中には絵を描いたり、フリーハンドで上手く描けない、又はデザインを考えたりするのが苦手だという方もおられると思います。どうも取っ付きにくいと感じている方々にお勧めしたい方法があります。例えば、気に入った建物（あまり複雑でない物、又は、カップ・花瓶・人・車等）のスマホ写真をコピー印刷してトレーシングペーパー（以下トレペ）にてトレースする作業を行って下さい。これはフリーハンドの修練、物体の形状（立体感）把握、建物であればデザイン・バランス感覚習得等に非常に役立ちます。施主との打ち合わせ時、サラサラとスケッチを描くことができる為の訓練も兼ねます。苦手、出来な

いを克服する最善の方法かと思っております。かの有名なファンズワース邸、ロンシャン教会、サボワ邸等比較的シンプルなデザインの建物をトレースするのも良いかと思えます。巨匠のデザイン・バランスの取り方等理解して自分の仕事に活かしていくことも大事ですね。建築だけではなく、家電品等（工業デザイン分野）のデザインも色々と工夫されたものが多くありますので、デザインのコンセプト等を推察する習慣を身につけると、建築デザインにも繋がっていくと思います。訴求力UPも目指せます。基礎編にてスマホ写真をコピーしてそれをトレペでトレースして、それを基にパースを作成する方法をご紹介しましたが、具体的にどういう工程で行うのか解説して参ります。（今回、古建築シリーズ第三弾として大洲市臥龍山荘臥龍院の製作手順を説明します。）

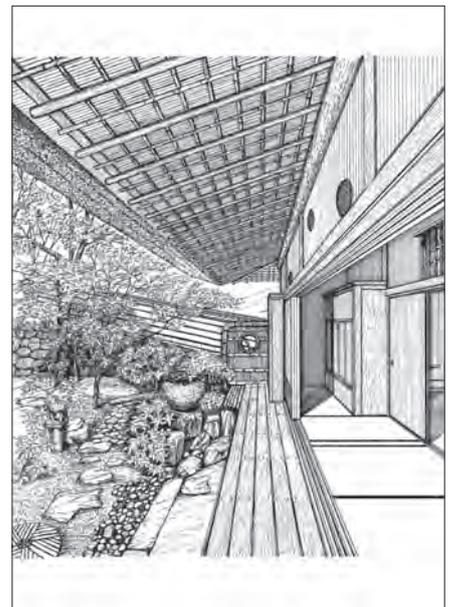
大洲市臥龍山荘（臥龍院縁側）[ペン画] スマホで撮ると3点透視図のようになりますが、これをトレース時に補正していきます。



▲写真コピー



▲トレース



▲完成図

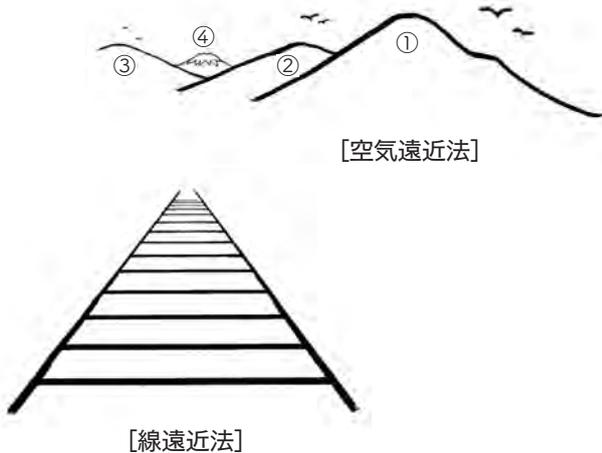
これがトレースした画です。一点透視図になるように補正しました。建物は下図を正確に描く為、平行定規製図板と三角定規を使い、庭園はフリーハンドで大まかにまとめます。この段階で各部分の納まりも把握します。ついでに色々な部材の名称等

もネットで調べて知識を増やすのも良いですね。次にトレペをコピーして、コピーした用紙の裏側を濃い鉛筆で塗り潰してから仕上用紙に転写（コピー用紙の線をなぞっていきます）して下図を作成します。何回かの工程がありますが、頑張りましょう。

写真を見ながら細部まで正確に仕上げていき完成となります。軒天の美しさ、建物と庭園との融合の素晴らしさに感動致しました。写真を利用するのは、この形状をパース技法で起こしていくとかなり時間がかかる為、仕事の合間に修練を重ねて行く場合の時短となるようにと考えました。絵画では模写というのがあり、色合いまでそっくり再現していく勉強法がありますが、効果とし

て色の調合・色彩感覚・構成力等が養えます。よって、建築に繋がっていきます。形は出来たけれど色合いはどうする、どんなイメージの建築とするかも避けられない課題ですね。決して時間の無駄にはなりません。引き出しの数がどんどん増えていき歳を重ねる程、楽になっていきます。少しずつ努力を重ねていかれる事を期待しております。

線遠近法・空気遠近法 より立体感を出す為の重要なテクニックとなります。



[空気遠近法]

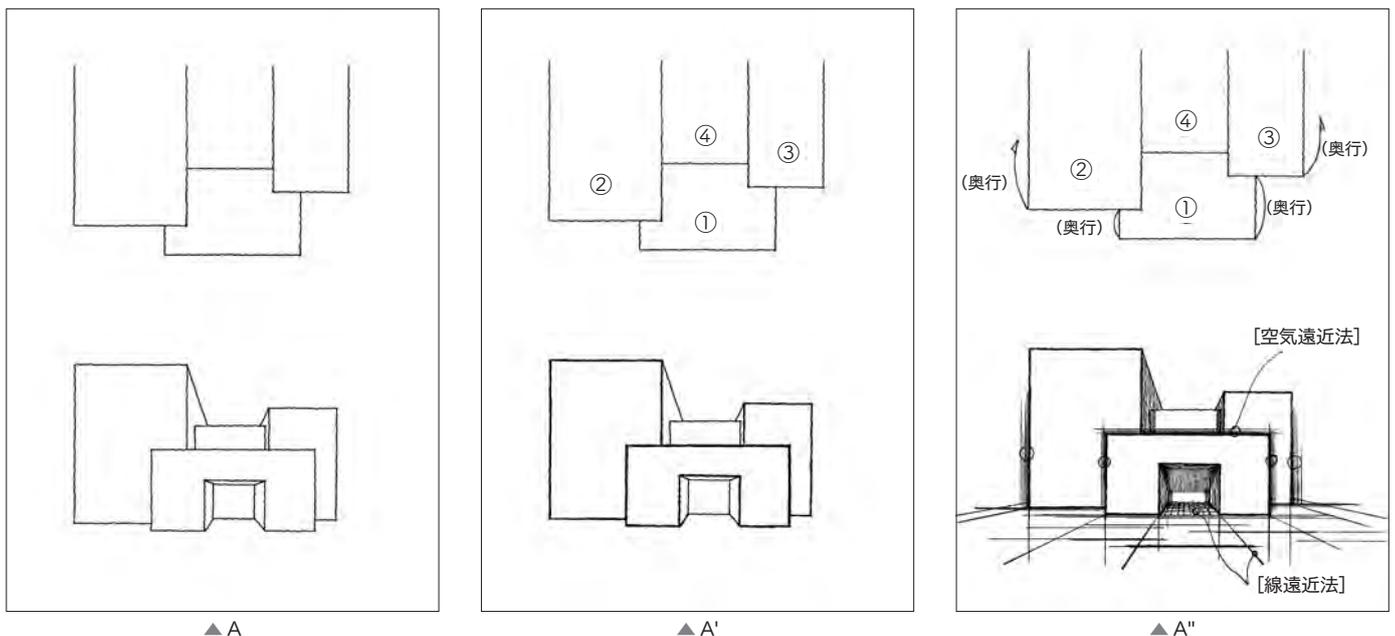
[線遠近法]

次に基礎的な知識も理解していただきたいと思います。今までの解説の中で、線遠近法・空気遠近法にちょっと触れましたが、パースを描く上で大事な要素ですので説明します。

先ず線遠近法は線路をイメージして頂くと分かり易くなります。手前から遠くなるほどレールが細くなり、枕木間隔が短くなっていく感じで、遠近感を出せます。道後温泉の石畳部分の表現の折に採用しました。

空気遠近法は山並を例にすると、①は緑濃く②は藍色に見えてきて③は青色となり④は青色が更に薄くなって見える、距離が段々と遠くなっていく事で色合いが変化していき遠近感が感じられます。ダ・ヴィンチのモナリザは人物の背後に遠く山河の風景が描かれていて、独特な手法で遠近感が演出されていますね。パースの場合もこの手法を用いて遠近感を出します。

次の参考図Aは4段階からなる建物を一点透視図で描いた例です。これだけでも立体感を出せますが、更に線の太さを変えて遠近感を強調したのがA'です。A''は①と②③④との距離感を出す為①の三方を薄い何本かの線で囲うだけでぐんと前に出て来ますね。そして、玄関タイル・路面部分を線遠近法で描き加えて影をつけると、更に遠近感が増します。この作業により、全体的に立体感溢れるパースが仕上がる訳です。



▲ A

▲ A'

▲ A''

皆さん、先ずは練習してみてください。次回も実践テクニック編です。尚、建築士会HPよりカラー版が閲覧できますので是非ご覧下さい。宜しくお願い致します。

道後温泉の湯釜 神の湯の湯釜編①

執筆： 一級建築士 野本 健
監修： 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹



▲神の湯東側浴室の湯釜

大国主命が少彦名命を抱く像を彫ったこの湯釜（直径143cm、高さ280cm）は、明治27年（1894）神の湯本館改築時に一ノ湯に設置された。その後、昭和10年（1935）の神の湯本館浴室改築時に東

浴室に移され、現在は神の湯の男子浴室で使用されている。湯釜には山部赤人の長歌が彫られており、道後温泉が名湯であることを称え、後の世まで栄えることを祈る意味が込められている。



【宝珠】

真甕寝哉

ましましいねたるかも

【訳文】

しばらく寝ていたようだ。

【湯釜頂部】

明治廿七季二月再造

前伊豫松山城主従三位菅原勝成題神語

道後温泉の湯釜 神の湯の湯釜編



▲湯釜頂部

【湯釜胴部訳文】

(長歌)

歴代の天皇がお治めになっている国々に温泉はたくさんあるが、なかでも島も山もよい国として、険しい伊予の高嶺の射狭庭の岡に立たれて、歌を案じ、言葉をお練りになられた。温泉のほとりの木立を見ると、臣の木も新たに茂っている。鳴く鳥の声も変わっていない。遠い将来、いよいよ神々しくなってゆくことであろう、昔の行幸の跡は。

(反歌)

大官人が熟田津で船出したという、それはいつ頃のことだろうか。

正五位日下部東作が赤人の歌を書く
大教正中臣衛居が神像を描く



▲一ノ湯 (提供：二神 将)

【考察1：湯釜薬師との交換】

この湯釜は明治27年（1894）建設の神の湯のために製作したもので、伊佐庭如矢が町長として手掛けた2つ目の湯釜である。この場所には古くから地元の人々が大切にしてきた湯釜薬師が鎮座していた。

神像部分のデザインは川越氷川神社の山田衛居、石工は広島県尾道の石井源兵衛であり、養生湯の時と変わらない。詠歌の彫刻は松山の今岡愛三郎が手掛けている。

宝珠の文字は伊予国松山藩の13代・15代藩主である松平勝成が揮毫した（松平勝成は明治維新後に菅原勝成として復姓している）。

『道後温泉と伊佐庭如矢』によれば、湯釜の石材は香川県の庵治石で三津浜港から飾牛に引かせて道後湯之町まで運搬したと言われている。

今では失われた光景であるが、道後温泉は昔、湯口から出るお湯を肩に当てるため大勢の人々が浴槽の中で並んでいた文化があった。それほどまでに自分の肩に湯を当てることが1つの風習として道後温泉に定着していたスタイルであった。

『道後温泉と伊佐庭如矢』によれば、湯釜は湯之町の町民にとって神仏に近い存在であり、湯釜薬師を取り除くと温泉が止まるなど祟りが起こると信じられていた。

そこで伊佐庭如矢は湯之町の町民に対して湯釜をそっくり替えるのではなく、湯口から肩に当てるお湯の高さを調整するため、その部分だけやり替えると説明して納得させるのであった。

しかし、実際に工事が始まると湯釜をごっそり替えることが発覚し、反対派の町民が湯釜の取替の監督をしていた伊佐庭如矢に出刃包丁で襲い掛かりそうになったという話も残っている。

『道後湯之町役場日誌』によれば明治26年12月3日に工事に着手し、湯釜薬師を取り除き、新たな湯釜を据え付ける作業を行ったそうである。

湯口から上の神像や宝珠部分は建物が出来た後に浴室内に持ち込み据え付けたそうで、松山市で土木請負業を営んでいた三好仙太郎が狭小な空間の中、苦心してやり遂げたという話が残っている。

道後温泉の湯釜 神の湯の湯釜編



▲松山市指定有形文化財（歴史資料）

【考察2：展示室の漆喰土と砂について】

又新殿・霊の湯棟の2階展示室には松山市指定有形文化財に登録されている漆喰土と砂が展示されている。

しかし、解説文は一切なく、一体どこの物を指しているかわからず、ただ古い物を眺めるだけの展示



▲真躰寝哉

【考察3：真躰寝哉について】

インターネットで神の湯の宝珠の文字について検索すると「真暫寝哉」という誤記が多く散見される。正しくは「真躰寝哉」であり、現実の湯釜や伊佐庭如矢が執筆した『道後温泉誌 略』もその言葉となっている。

実物や原著を辿らず、二次利用、三次利用の書物や言葉を信じてしまう人々があまりにも多いことがインターネットの世界から見えてくる。自分自身歴史の調査をする際は常に気を付けようと思う発見であった。

になり果ててしまっているのが現状である。

まず、漆喰土について、これは明治27年（1894）に神の湯の湯釜を湯釜薬師と取り替えるために、取り外した時に出土したものと考えられる（明治29年と記載があるが、明治29年の工事履歴はないため、誤記の可能性が高い）。

保存修理工事の際、出土した養生湯の湯釜下の井戸の痕跡の状況から推測すると、湯釜の下に組んでいた井桁と湯釜を接着するために用いた材料と考えられる。

砂については湯釜薬師の底にあった砂を採取したという記述となっている。

このように神の湯東側浴室の湯釜との関連性を示せば、非常に理解しやすい展示になるものと考えられる。

■まとめ

明治27年（1894）建設の神の湯の湯釜は、伊佐庭如矢が家司として仕えていた、伊予国松山藩の旧藩主菅原勝成に「真躰寝哉」という揮毫文を依頼している。

また中央廊下の側石（かつては一ノ湯の側石として用いられていた）の表現などから伊佐庭如矢の時代から、伊予国松山藩の松平家が道後温泉の興隆に寄与し、盛り上げ始めたことが、非常によくわかってくる。

このように時代時代の為政者によって誰を盛り上げ、何で観光客を集客しようとしていたかが、見え隠れしてくるのは非常に興味深いものだと思え、引き続き湯釜の調査を続けたい。（続く）

■参考文献

『道後温泉誌 略』伊佐庭如矢 1901年
『道後温泉と伊佐庭如矢』阿部里雪 1915年
『道後温泉 増補版』松山市 1982年

*本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

愛媛県建築士会・建築士事務所協会 合同親睦ゴルフコンペ報告



総務・企画委員会 委員長 井上 竜治

開催日：令和7年5月14日(水)

場 所：愛媛ゴルフ倶楽部（喜多郡内子町）

参加者：67名

5月14日、まさにゴルフ日和！というより、5月とは思えない暑さの中、愛媛県建築士会・建築士事務所協会の合同親睦ゴルフコンペが開催されました。総勢67名のご参加をいただき、あちこちで歓声と笑いがこだまする、大変にぎやかな一日となりました。

私も朝から「今日は頑張るぞ！」と密かに意気込んでプレーしていたのですが、ラウンド中に、ポケットのスマホがブルブル、見覚えのある番号で、思い当たることもあったので、「出るべきか？どうしようか？」と思いながらも、なぜか出てしまう悲しい性。そして、案の定、お叱りの電話でした。丁寧に謝って電話を切り、気を取り直してティーショットを打つも、林に消えて行き！OB！そこから先はチョ口、チョ口の連続で、心が乱れるとゴルフも乱れる、まさにメンタルスポーツだと痛感しました。

そんな中、私の前の組でラウンドされた優勝の渡邊さんは、なんと、ニアピンをすべて獲得するという神業を披露し、まさに文句なしの優勝でした。さすがの実力で脱帽です。そして、BMの桑原さんは、今回が初参加とのことでしたが、そのチャレンジ精神と明るいプレーぶりに、今後の上達がとても楽しみです！

最後になりましたが、この暑さの中、誰一人けがなく無事にプレーを終えられたこと、そして皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。次回もまた笑顔でお会いしましょう！

（優勝・BMの感想）

▶**優勝** 株式会社イオタオーエーシステム 渡邊 将幸
愛媛県建築士会・愛媛県建築士事務所協会合同ゴルフコンペお疲れ様でございました。前は建築士事務所協会様のゴルフコンペで初参加、初優勝に続き今回もまさかの優勝というとても嬉しい結果となりました。

ゴルフコンペを主催していただきました事務局の皆様のご尽力により、皆様と和気藹々と楽しくラウンドすることができてとても充実した一日となりました。また次回、3連覇を目指して練習に励みたいと思います。宜しくお願致します。

▶**BM** 総合資格学院 松山支店 桑原 美香
今回初めてゴルフコンペに参加させて頂きました。172というスコアをたたき出し、最下位の称号を頂戴した総合資格の桑原美香と申します。

前々からいつかやりたいと思っていたゴルフを去年始めて約半年。超初心者にも関わらず温かく受け入れて下さり、運営の方々のご配慮のおかげもあり、貴重な経験ができました。特に同じ組で回っていただいた家久さん、高橋さん、加藤さんには練習時から大変、大変お世話になりました!!この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

教えて頂いた事が結果につながるまで、今後も温かく見守っていただけますと幸いです。今回歩いた距離は誰よりも多いかもしれませんが、誰よりも笑い、楽しませていただいたと思います。

また、ゴルフ以外にも建築士会主催のボーリング大会や、ソフトバレー（火曜日夜）にも参加させていただきました。普段お話しする機会がなかった方々や初対面の方ともスポーツを通して親しくなれたり、懇親会でお会いした際に「また参加してね〜！」とお声掛けいただけただけで本当にうれしかったです。

次回は150を切るのを目標に頑張りますので、ゴルフを始めたての初心者さんがいらっしやれば、私と最下位争いに参加いただけることを心よりお待ちしております♡

令和6年度 第4回愛媛県ヘリテージマネージャー 養成講座を開催して

文化財・まちづくり委員会 委員長 峰岡 秀和

令和6年度第4回目のヘリテージマネージャー養成講座が開催されました。令和6年7月から翌7年2月まで、計10回の授業が行われました。朝9時30分から夕方16時30分までの6時間授業を、計60時間受けることになります。この長い授業を受け、卒業試験にあたる、「私が見つけた文化財」を無事発表した生徒が晴れて「ヘリテージマネージャー」となる事が出来ます。6年度は27名が受講されました。

■ヘリテージマネージャーとは

ヘリテージマネージャーは全国組織で、愛媛県においては「歴史的建造物の保存活用に係る専門職」と位置付け、登録有形文化財の申請や、文化財の耐震初期診断、活用相談などを行っています。また、大規模災害時には「文化財ドクター」として県内の文化財の現状調査をするようになります。

愛媛県では平成28年度から養成講座が始まり、現在まで3回の講座が行われました。また、令和4年に建築士会の組織としてヘリテージマネージャー協議会が創設され、令和7年5月末時点で71名（今回卒業生含む）が加入しています。

■講座について

全10回の講座はヘリテージマネージャー養成講座のガイドラインに沿ったカリキュラムとなっており、別添の通りです。ヘリテージマネージャーや県内外から講師を招き、充実した学習内容としました。



▲第1回 與那原さんと協議会副会長酒井さんの講義



▲第2回 東予ブロック長寺尾さんの講義。奥は広瀬邸



▲受講女性陣と第2回講師中山さん。お昼のひと時



▲第3回は大人気、三浦先生の講義でした

歩いて実際に見て感じる講座内容はそのままし、暑い季節から寒い季節まで本当によく頑張ってくださいました。特に最後の「私が見つけた文化財」は素晴らしい調査内容で、持ち時間10分が短い！という意見が多く、機会があればスキルアップ講座でリベンジ発表を企画したくなるような内容でした。

最後に、養成講座開催にあたりご協力くださいました諸先生方、バックアップをしてくださりました愛媛県建築士会事務局の皆様にご感謝申し上げます。また、受講生の皆様、本当におつかれさまでした。これからヘリテージマネージャーと一緒にがんばりましょう！



▲内子座での見学の様子。協議会会長花岡さんの説明



▲坂本家で愛媛大学佐藤先生の講義の様子



▲卯之町で現地を歩きながら協議会副会長酒井さんと実習



▲坂本家ではみんなで調査しました。寒かったですね！



▲最後に記念写真。絆の強い第4回卒業生です

令和6年度 第4回愛媛県ヘリテージマネージャー 養成講座を開催して

皆さんの感想を一部ご紹介（順不同）

- ◎ヘリテージ、定時にへりくつをいう会……では無かった。各自各様の見方の中で様々な文化財に迫る“同志”を得た気分。良き刺激をありがとうございました。（岡崎直司）
- ◎歴史的建築物の背景など、ストーリーがあることが面白いと思いました。また、普段出会う機会がない方々とも知り合えて一生の財産になりました。またスキルアップ講座など参加したいと思います。（丹基徳）
- ◎犬伏先生の活動紹介をしてほしい！（宮内健志）
- ◎地域の歴史的資産の建築物の発見・保存・活用に関わる勉強を改めてでき、様々な視点を持つ方々と共有ができ大変良かったです。（橋亮）
- ◎峰岡様、花岡様の弛まぬ事業のお世話に感謝です。三浦氏が申されたように愛媛は文化財の宝庫、私たちが次の世代に継承していく責任を痛感しております。（武智和臣）
- ◎全体を通じて大変勉強になった講座でした。実際に文化財を見学することができ、また、文化財の専門家のレクチャーもあったため、非常に多くの知識を吸収することができました。（野本健）
- ◎私は建築や建物に精通しているというわけではないため、講義の内容によっては難しい部分がありましたが、講義や発表を見聞きし、新たな視点で物事を考えたり、知見を広めたりすることができたため、これからその知識を活かしていきたいです。（峰岡榮菜）
- ◎あっという間の一年でした。普段文化財に触れる機会が少ないですが、ヘリテージの講座を通して身近に感じることができました。これを機に1つでも多くの文化財について興味を持って調べてみたいと思います。（一之瀬佳緒理）
- ◎大変勉強になりました。足を引っ張るのではないかと心配でしたが、60時間楽しい講座でした。峰岡委員長はじめご準備頂きました方々に感謝申し上げます。（尾藤淳一）
- ◎全10回の講習会で古い建物などの残し方やその家の歴史を勉強する大切さを改めて教えていただきました。（富永清志）
- ◎大変勉強になり良い機会をいただいた。（岡本孝）
- ◎多くの知識と出会いを得られた、貴重な機会となりました。開講いただきありがとうございました。（岡本隆）
- ◎保存、活用、資金集めや労力の確保など課題山積みだと思うので、その点についてもっと深く学んでみたいと思います。ありがとうございました。（合田純）
- ◎卒業生です。勉強の機会を何度も与えていただきありがとうございます。発表が100程たまったらデータにしてもらえたらいいなと思います。（中山百合子）
- ◎古民家の保存には所有者や法令適合など様々な問題がありますが、建築に携わる側の提案により廃屋にならない取り組み事例（資金助成、耐震、可逆的リノベーション、法令適合・申請回避）など具体的な講座があれば実務的にも魅力があり、保存など悩まれている古民家所有者も参加できれば有意義なものになるかと思っています。（宮田勝広）
- ◎結局HMIは何をすればよいのか、何をやる事が許されるのか、何か決定権があるのか。ただ見つければよいのか、具体的に修繕への手順や手続きとか活用と称して素人が遊びで集う事、一つのアプローチとは思いますがそれも保全と言うのか、一過性にならないか。保全活用資格なのか保全活用に係る専門家なのか。なんだか私はモヤモヤとしている。（野本博隆）

「私が見つけた文化財」発表内容（※は優秀賞）

- 大和田建樹詩碑（酒井純孝）
塔萬山福楽寺：奥の院 観音堂（長岡・下元）
宇和島伊達家墓所（富永・猿谷・菊池）
残る物と消える物（地藏堂・楨谷集落）（野本博隆）
旧門田邸（武智和臣・福岡将也）
土佐北街道（篠原家・石川家）（尾藤・丹・合田）
大政家長屋門（矢野・向川・一之瀬）
※近藤分家（近藤呉服店）（橋詰）
伊予鉄道松前駅（宮内・橋）
御三戸橋（岡本孝・岡本瞳）
一宮神社（宮田・山内・渡辺）
小西酒造場（尾崎・井上）
坂本歯科医院（岡崎）
道後温泉本館（野本健）
興居島四国のお堂とお接待（後藤・峰岡）

令和6年度 愛媛県ヘリテージマネージャー養成講座カリキュラム

	開催日・場所	講義内容	講師
1	7月6日(土) (松山市)	オリエンテーション、講座の趣旨、内容説明	愛媛県建築士会HM協議会長 花岡 直樹
		立ち上げから現在まで（ひょうごヘリテージの25年）	全国HMN協議会相談役 沢田 伸
		文化財の改修と建築基準法	愛媛県建築士会HM 與那原 浩
2	7月27日(土) (新居浜市)	文化財の種類や愛媛県の文化財の紹介	愛媛県建築士会HM 中山百合子
		広瀬邸見学、新居浜の近代化の歴史について	愛媛県建築士会HM協議会東予ブロック長 寺尾 保仁
		東予の文化財、近代化遺産について	愛媛県建築士会HM 曾我部 準
3	8月24日(土) (松山市)	建築史と修復概論	広島大学名誉教授 三浦 正幸
		伝統的建造物の構造・技術	
		近現代建造物の構造・技術、修復工事の手法	
4	9月14日(土) (松山市)	愛媛の近代化遺産について	近代化遺産活用アドバイザー 岡崎 直司
		三崎地区の文化	愛媛県建築士会HM 笹木 篤
5	10月19日(土) (内子町)	内子座の保存、内子の町並み見学	愛媛県建築士会HM協議会長 花岡 直樹
		伝建地区の今までの歩みとこれからの課題、展望	八日市護国町並み保存センター元所長 土居 正一
		高知県・愛媛県西予市を中心とした歴史的建造物の活用事例	高知工業高等専門学校准教授 北山めぐみ
6	11月9日(土) (西予市)	伝統的建造物の修復技法、宇和町教会について	愛媛県建築士会HM協議会副会長 酒井 純孝
		南予の文化財紹介、登録有形文化財の活用について	愛媛県建築士会HM 眞田井良子
		宇和町町並み見学	
7	11月30日(土) (松山市)	愛媛の社寺建築と城郭建築について	愛媛大学社会共創学部准教授 佐藤 大規
		道後温泉の文化財活用と様々な可能性の発見、見学	野本 健
		文化財の修理、防災、近代化遺産建築の説明、事例紹介	愛媛県建築士会HM協議会長 花岡 直樹
8	12月14日(土) (松山市)	八女福島町の街や再生とまちづくり、修理事例報告	八女福島町家再生研究所 中島 孝行
		文化財ドクター、古民家の防災について（他県との連携）	愛媛大学法文学部教授 胡 光
		文化財防災、レスキュー（愛媛県文化財防災との連携）	愛媛県建築士会HM 花岡 晶子
9	1月11日(土) (東温市)	演習（文化財調査、作図、報告書作成）	愛媛大学社会共創学部准教授 佐藤 大規
		東温市坂本家の調査方法	愛媛県建築士会HM協議会副会長 酒井 純孝
		測量調査、図面作成の方法、求められる技術について	
10	2月15日(土) (松山市)	私が見つけた文化財（全員が発表）	
		意見交換	
		総括・修了式	

9:30～16:30（6時間講座）

大洲市蔵川三島神社調査報告

文化財・まちづくり委員会 委員 菅野 隆次

大洲市蔵川地区は、他の地域同様、少子高齢化が進み、人口減少が進んでいるため、限界集落の状況にあるといえます。

多くの自治体では、人口減少、空き家問題、産業の衰退、社会機能の維持など様々の課題を抱えており、地域社会の維持と活性化のためには、これらの課題を解決していくための取り組みが重要です。

大洲市蔵川三島神社は、こうした難題を抱えていますが、住民の心のよりどころとして、大洲の地域では一番おいしいと評判のお米がとれる地域であり、水穂がさわやかな薫風にたなびく見晴らしの良い高台に鎮座しています。



▲三島神社の鳥居



▲随神門

本殿は、明暦元年（1655）建立、中殿は明治38年（1905）改築、拝殿は文久元年（1861）建立とされております。

現存している神社の屋根は、瓦葺き、銅板吹き、檜皮葺きがほとんどですが、この神社の拝殿は、茅葺です。向拝の屋根は、唐破風の形状で瓦葺きとなっています。拝殿の茅葺屋根は、経年劣化による傷みが多く一部では雨漏れがあり、ブルーシートで覆われている状況であります。



▲鎮守の森に佇む三島神社

蔵川地区の氏子たちもこのままでは維持継承が難しく、協議の結果拝殿については、解体やむなしということに結論付けられました。

解体の前に、文化財・まちづくり委員会が図面化してその拝殿の遺構を残すことを提案いたしましたら、快く承諾をいただき、委員会が調査を開始、図面化にとりかかりました。

年度末も押し迫った3月22日、晴天に恵まれて、4名のメンバーでそれぞれが分担して実測にとりかかりました。



▲胡粉の痕跡が残る木鼻

向拝の組み物を調査しているとき、虹梁の彫り物、丸桁、木鼻にわずかに胡粉の痕跡が見受けられました。このことは、この神社が、彩色豊かな神社であったことが伺えられ、この蔵川地区は、大洲藩の財政を担う米どころとして重要な地域であったことが想像されます。

大洲市誌によると、『祭神は^{おやまつみのみこと}大山積命、^{いかづちのかみ}雷公神、^{たかおかみのかみ}高竈神ほか合祀神数柱。氏子は蔵川全域、沿革として、蔵川村始めの御神は「河内五社大明神」で蔵川の鎮守であった。

神主は、代々の庄屋が務めていたが明暦元年（1655）に神前祭事を始めるにあたり、庄屋より藤原氏の二宮次郎太夫と申される方に神主を申し付けられた。

同年に二宮大夫の観請により、三島神社が氏神になった。蔵川には、大・少数社あったが、明治40年（1907）の神社法一部改正により、「川口の八幡様・丸山の五社様」をはじめ三島様に合祀された。

本殿は明暦元年（1655）に建てられた。』と記されておりました。

境内には、随神と呼ばれる神像が祀られている茅葺の随神門もあります。随神（カンナガラ）は、社殿や神社社地（境内）寺院など聖域を守る役割を担います。邪悪なものを払い、神様を守り参拝者を守る存在とされています。

随神は貴人を警護する^{ずいじん}舎人の格好をしていて、弓矢を

持ち、剣を佩びた姿で表現されています。神像は社殿の奥に秘蔵されていることが多いので、神像が拝めるのは珍しいものです。

幸いにも、多くの神社にあるように、本殿は風雨にさらされぬように覆いが建てられておりその荘厳さが建屋の隙間からかいま見られます。



▲拝殿の小屋組

地元の氏子たちが、いかにこの社を心のよりどころとして大切にされていたかがわかります。

境内には、本殿、中殿、拝殿、随神門、と鳥居、狛犬1対、石灯笼1対、手水舎・手水鉢が鎮守の森に設けられています。

残念ながら、この拝殿については、前述しましたように、維持管理上、解体される運命にあります。

また一つ、営々と伝承されてきた建物が消滅いたしますが、我々の活動、およびこの記録が、少しでも地元の方々にお役に立つことができれば幸いです。

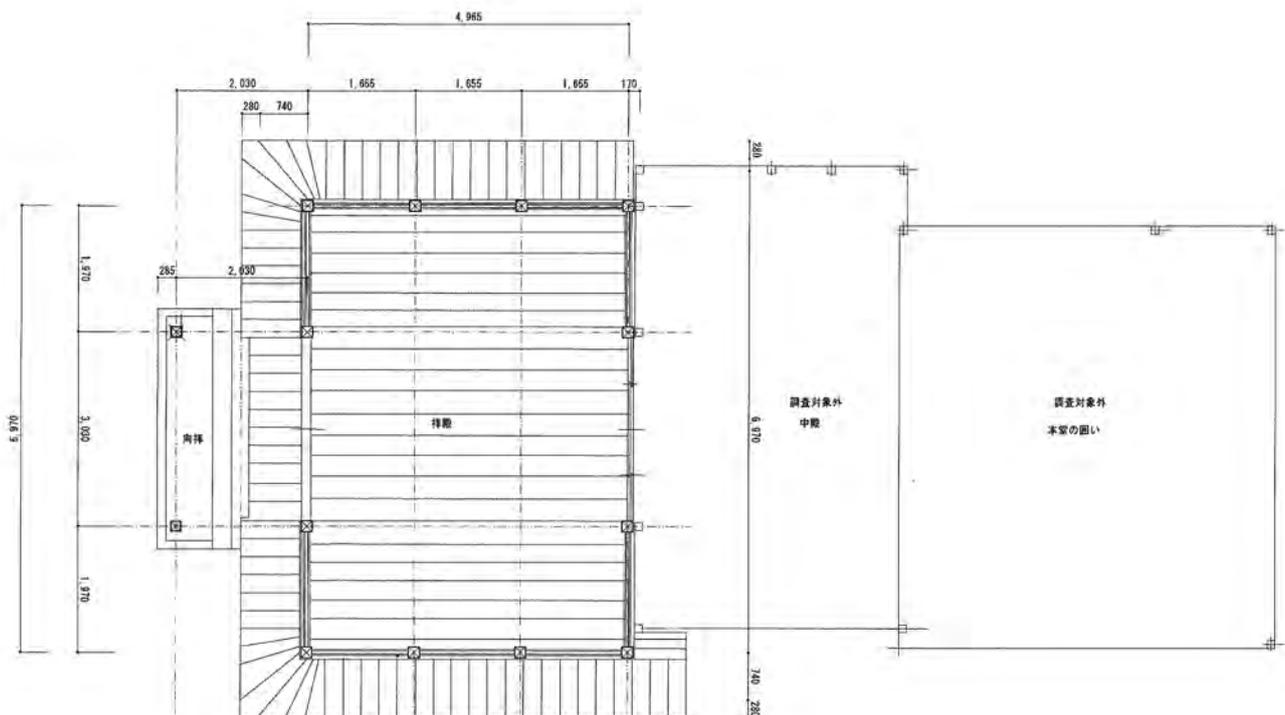


▲調査に参加した皆さん

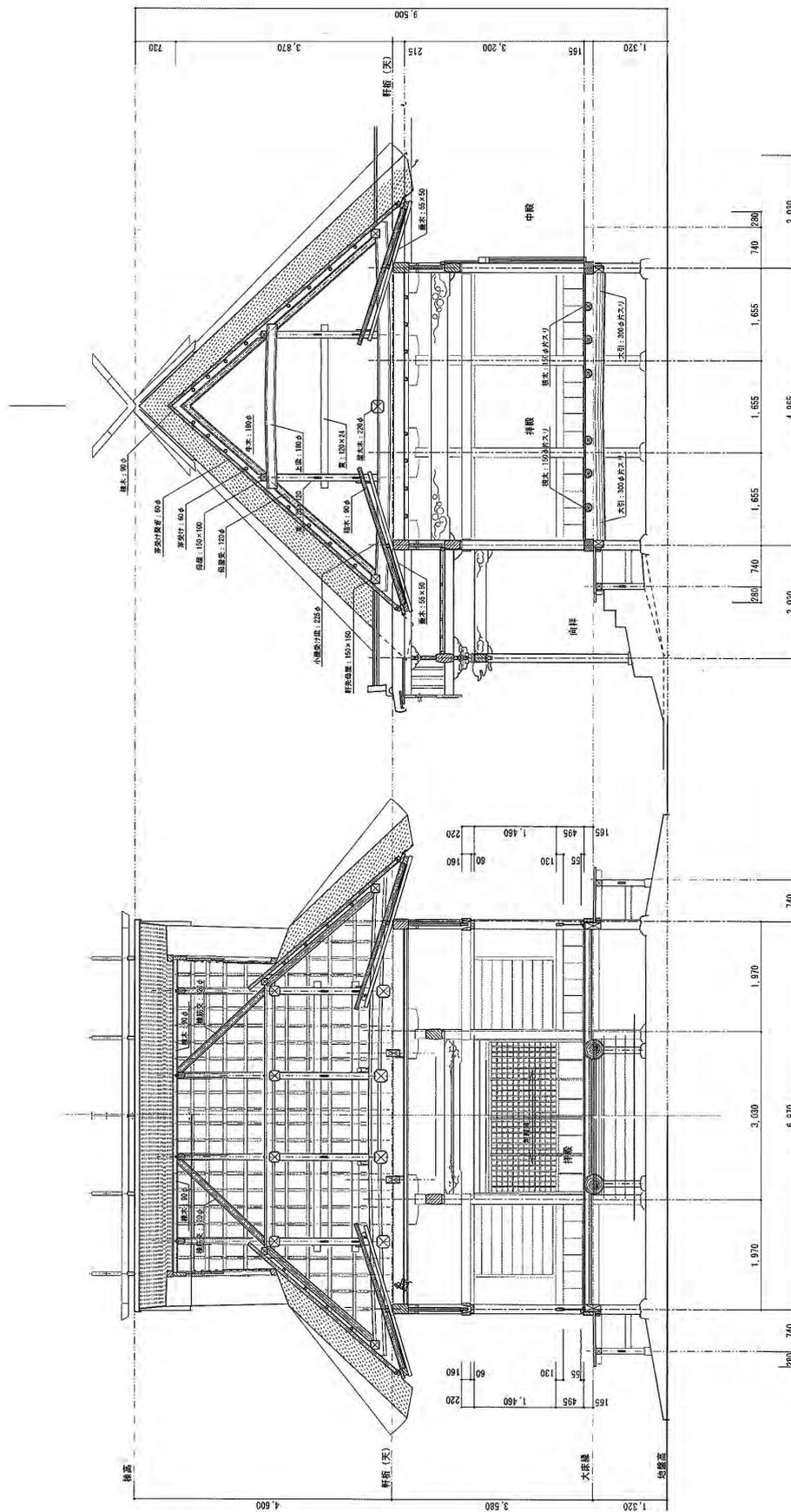
調査年月日：令和7年3月22日(土)

調査場所：三島神社（大洲市蔵川甲2282番地）

測量・図面作成：遠藤禎誌、白石耕平、菅野隆次、渡辺建文



▲平面図



▲断面図

今治市建築住宅課による 「2025年4月施行建築基準法・省エネ法 改正実務セミナー」開催報告

今治支部 森 昇平

日 時：令和7年4月21日(月)10:00~12:00
場 所：今治市役所 第二別館 11階 特別会議室
参加者数：32名（会員・賛助会員・会員外含む）

今治市建築住宅課による法改正実務セミナーが、会員からの要望に応えるかたちで開催されました。

当日はセミナーに先立ち今治市消防本部予防課より先日の山林火災の鎮火報告と住宅火災の増加に対し、消防への報告義務のない規模の住宅の新增改築工事においても、火災に有効な小型消火器・カーテン等の防災製品や耐震ブレイカーの採用依頼があり、小型消火器についてはデザイン性の高い消火器の紹介もして頂きました。また、今治市は消防法違反件数において全国10市に入るとの衝撃的なお知らせがあり、現在改善に向けて立ち入りを実施しており、今後施主より相談があった際には予防課と協議して頂き、建築的及び消防設備による改善策の実施に向けて協力要請がありました。



▲今治市消防本部担当者による講義

その後建築住宅課指導係による、木造住宅にしばった建築基準法・省エネ法の改正の概要説明が資料配布とともになされ、なかでも4号特例の見直しに伴う申請図書の作成や完了検査時に必要な書類等について説明いただきました。

なかでも、完了検査については4号特例により監理者に任されていた範囲が検査対象となり、検査時に確認できない部分は工事写真等により確認するので、書類不備な場合は検査済証が交付できなくなる恐れがあるとのこと、工事中に確認すべきポイントの照会があり、特に



▲今治市建築指導課担当者による講義

基礎配筋の立上りや底盤の補強筋フックに言及されていました。

一通り説明頂いた後、座談会形式での意見交換があり建築主事より確認申請図書の作成については、日経アーキテクチャーでも取り上げていた、熊本県版確認申請図書作成例が参考になると紹介がありました。参加者からは現場での不備がないように工事写真の作成例について多くの要望が出されましたが、今後の検討課題となりました。

最後に個人的な感想ですが、今回の法改正では私同様、審査側も含め多くの設計監理に携わる方々が、4号特例の見直しによる現場監理の進め方について改めて注目していると感じました。



▲受講風景

今治支部総会報告及び 令和6年度活動報告

今治支部 支部長 曾我部 準

日 時：令和7年4月25日(金)17:00

場 所：ホテル菊水

出席者：25名（委任状61名）

今年度より、総会会場を参加人数の規模に見合った会場に変更して開催しました。初めに、司会より出席者数及び委任状数が正会員数111名の3分の1以上となり、会が成立する旨報告があり、支部長の議事進行のもとで以下の議事について異議なく承認されました。

【議 事】

- (1) 2024年度 実施済事業報告（第1号報告）
- (2) // 決算報告（第2号報告）
- (3) // 監査報告（第3号報告）
- (4) 2025年度 事業計画案審議（第1号議案）
- (5) // 予算案審議（第2号議案）

上記議案のうち、(4)の第1号議案の審議については前年度同様の計画としています。つきましては前年度の実施済事業について以下の通り報告します。

【地域実践活動事業】

1. 「いまばり建築巡礼2024」として、市内小中学生親子を対象に公会堂をはじめとする丹下建築を、支部会員が解説しながら巡りました。公会堂のステージ裏、市庁舎の中の議会場、愛媛信用金庫今治支店の屋上など普段は目にする事のない場所に入ることが出来るのがこの建築巡礼の目玉です。



▲今治建築巡礼2024の様子

2. 「作り手の想いを伝えるおはなし会」の第1弾として瓦にまつわる講座を、淡路島の大栄窯業代表取締役の道上大輔氏を講師に招いて開催しました。道上氏の

講演の後、瓦を再利用して改装中の古民家カフェと地元菊間瓦の工場と店舗を見学しました。夜には支部会員、菊間瓦窯業組合のメンバーとともに道上さんを囲んで懇親会を開催しました。



▲懇親会の様子

【会員交流及びスキルアップ事業】

1. 本会の青年委員会が主催する「ソフトバレーボール大会出場」に参加することで、支部会員や賛助会員また他の支部会員とも交流を深めました。10月は強化月間として週に1回の練習会を開催しました。
2. 「視察研修旅行」として、9月に開催したおはなし会の講師を務めていただいた道上氏と伝手をたどって、JIA四国支部の建築賞で大賞を受賞した徳島県の東林院弥勒堂を見学した後、淡路島に渡り道上氏の大栄窯業の工場を見学し、最後は改修後の丹下健三設計の若人の広場公園の戦没学徒記念塔を廻りました。



▲今東林院弥勒堂にて



▲若人の広場公園にて

今治支部ではこの「建築巡礼」と「作り手の想いを伝えるおはなし会」の2つの事業を地域実践活動事業として、「ソフトバレーボール大会出場」と「視察研修旅行」の2つの事業を会員交流及びスキルアップ事業とする4つの事業を柱とし、他にも随時支部会員・支部賛助会員の皆様はもとより、地域のためになる活動ができるよう努力していきたいと思ひます。

松山支部より

松山支部 支部長 花岡 直樹

早いもので私が愛媛県建築士会の松山支部長を仰せつかって、5年が経過しました。最初の2年は新型コロナの影響で実質的な活動ができず、ホームページをリニューアルして情報交換をするなど、もがく毎日でしたが、令和5年5月に、コロナが5類に移行してからはほぼ元のような活動ができるようになり、再び活気づいてきました。建築士の日の行事として、子供たちと住宅模型を作る「家づくり体験」は、一昨年度開催した校区から再び依頼があったことはとてもうれしいことでした。夏の支部会員の集いと称したビアガーデンでの懇親、研修バスツアーとして香川県への小旅行、地区対抗ボウリング大会&懇親会など、たくさん開催することができました。

また、本会行事にも積極的に参加しました。全国大会（鹿児島大会）に松山支部から24名が参加し、大塚美由紀氏が連合会会長表彰を受賞されました。飛行機の欠航にもめげず、急遽フェリーを利用して無事にたどり着くという記憶に残る大会となりました。また、県の青年委員会主催のソフトバレー大会には松山支部から3チームが参加し、Aチームが見事に優勝旗を奪還するなど、みなさんとともに頑張りました。私も昨年に引き続き1試合に出場させていただきました。



▲ソフトバレー大会の様子 前列右は優勝旗を持つ松平主将

そして、今年度もさらに進化した活動を、と行なわれた、令和7年度の支部総会の報告をさせていただきます。総会のあとの懇親会には、今年も約100名を超える参加があったことを申し添えます。大勢の皆さんのご参加に感謝です。

【松山支部総会の報告】

1. 日 時：令和7年4月22日(火) 18:15～18:45
2. 場 所：ネストホテル松山2階 ネストホール
3. 出席者：出席71名
(正会員:53名、来賓:1名、賛助会員17名)
4. 黙とう：物故者 4名
5. 開 会

安藤副支部長より、松山支部正会員480名中、出席302名（委任状含む）で、本総会は支部規約第15条第1項に定める定足数の3分の1以上が出席しており、成立している旨の報告をした。

続いて、支部規約第9条第1項の規定により、花岡支部長が議長となり審議を進めた。

6. 議 事

第1号議案 令和6年度事業報告の承認について

第2号議案 令和6年度収支決算の承認について

佐々木監事より監査報告を行った。

議長より、第1号議案、第2号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

第3号議案 令和7年度役員の変更について

研修・技術委員長を大内雄志氏に、青年・女性委員長を辻川晃太郎氏に変更する旨を諮ったところ、異議なく承認された。

第4号議案 令和7年度の事業計画の決定について

第5号議案 令和7年度の収支予算の決定について

議長より、第4号議案、第5号議案について諮ったところ、異議なく議決された。

このあと功労者表彰、感謝状贈呈を行った。

功労者表彰：入船安紀氏

感謝状贈呈：ハイスピードコーポレーション(株)



▲総会の様子

このように活発に活動を行ったことにより、令和6年度の収支決算は、ほぼ予算通りとなりました。今年度も切り詰めるところは切り詰め、活発な活動ができるよう大いに頑張っていきたいと思っております。

いつも言っていますが、私の基本理念は「人材育成」です。このところ賛助会員の会社の方を含め、若い方々の参加が多くなってきています。松山支部の活動のあとに、多くの方が建築の仕事を楽しくしていけるよう、みんなで力を合わせて松山支部を盛り上げていきましょう！今年度もどうぞよろしくお願いたします。

令和7年度伊予支部総会報告

伊予支部 支部長 窪田 博文

開催日：令和7年5月10日(土) 18:00~20:30
 開催場所：川崎屋（伊予郡松前町）
 出席者：26名

令和7年伊予支部総会が、愛媛県建築士事務所協会会長の烏谷陽一郎様、伊予市建築組合書記長の大野正昭様をお迎えして開催されました。

総会では、

- (第1号議案) 令和6年度事業報告
- (第2号議案) 令和6年度決算報告
- (第3号議案) 令和7年度事業計画案
- (第4号議案) 令和7年度予算案

その他、建築士会大阪大会の参加については伊予支部として単独で参加する方向で承認されました。

令和6年度の反省点としては、久しぶりの研修旅行を計画していましたが、当初予定していた参加人数を大きく下回ったため、中止を余儀なくされました。旅行の日程が悪かったのかと反省しております。次回は開催できるように調整したいと思います。

総会終了後、お待ちかねの懇親会の開催です。普段会う機会が少ないですが、皆さんと色々な話ができて親睦を図る事が出来ました。



▲懇親会の様子

例年は伊予市で開催されておりましたが、私が松前町在住の為、松前で開催してみました。料理にボリュームが有り食べるのに苦労していた方もいらっしゃいました。



▲懇親会の様子

(反省) 総会の様子を写真に収める予定でしたが……。うっかり。親睦会の写真しか撮れていませんでした。



▲参加者集合写真（前列左端の人は川崎屋の大将）

西予支部総会報告及び セミナー開催報告

西予支部 支部長 山内 真一

題 名：2025年4月1日施行建築基準法・建築物省エネ法改正法セミナー

日 時：令和7年4月24日(木) 14:00～16:45

会 場：宇和地域づくり活動センター

西予支部では、令和7年4月24日(木)に「2025年4月1日施行 建築基準法・建築物省エネ法改正法セミナー」を、開催しました。

本来は施行前の3月に開催予定でしたが、施行後の開催となりました。

内容は、① 改正基準法について

② 建築物省エネ法について

③ 補助金制度と窓環境について

参加者は、会員：9名・一般：2名の計11名でした。YKK-AP(株)森様に講師をしていただき、省エネ法等について講義いただきました。

“製品紹介等”は避けていただきましたので、説明しづらい所もあったかと思われそうですが、丁寧に解説いただきありがとうございました。



▲セミナー視聴の様子

■令和7年度西予支部総会

会 場：いそき屋（西予市宇和町）

出席者：12名、委任状7名

同日、午後6時より宇和町「いそき屋」にて令和7年度西予支部総会を開催いたしました。セミナー講師の森様にも引き続き総会に参加して頂きました。

また、来賓として愛媛県議会議員兵頭竜氏にご出席いただきました。

総会出席人数は会員：12名、委任状7名で、総会は成立し山内支部長の開会挨拶から始まりました。

【議 案】

① 令和6年度事業報告

② 令和6年度収支決算報告

③ 令和7年度事業計画

④ 令和7年度予算

について審議、質疑等なく承認されました。

本年は役員改選年では無いため総会は短時間で終わり、懇親会で盛り上がりました。

今回は昼間に法改正セミナー、夜に総会開催というハードスケジュールでしたが、何とか出来ました。と、安心したら……、総会の写真を撮り忘れていました。

令和7年度「建築士の日の行事」計画（決定事項）

日 時：令和7年7月3日(木) 13:30～17:00

場 所：西予市役所5階 大会議室

「2025年度 耐震リフォーム達人塾 市ぐるみ勉強会」を、西予市建設部建設課の協力のもと行います。講師は、名古屋工業大学高度防災工業研究センター客員教授の川端寛文氏 です。

昨年に続き、2度目の勉強会になります。

内容は、

① 実例で学ぶコストダウンの隠しワザ

② 住宅所有者への説明技術

③ 手計算で学ぶ精密診断等

④ 耐震改修促進のヒントと補足説明

⑤ 質問・意見交換

と、なっております。



▲質疑応答の様子

第3回愛媛の景観写真コンテスト 募集のお知らせ

文化財・まちづくり委員会

◎趣 意

私たちが暮らす愛媛県には素晴らしい風景と歴史があります。歴史は則ち人の営みでありそれを今に留めるもののひとつに建築という行為があります。私たち愛媛県建築士会は歴史が感じられ、時を超えて愛されている建築物を「建築遺産」、さらに建築遺産を収めた愛媛県内の風景を「愛媛の景観」と定義し、ここに「第3回 愛媛の景観写真コンテスト」を開催します。

単なる「風景写真」ではない、あるいは建築単体をテーマとした「建築写真」でもない、あなたが未来へ残していきたい愛媛県内の「景観」を教えてください。みなさまのご応募をお待ちしています。

◎テーマ（題材）

「愛媛県内の建築遺産を収めた景観写真」

おおむね築50年以上を経た建築物及び土木構造物を収めた景観（神社、仏閣、駅舎、住宅、公共建築、橋梁、灯台、常夜灯）

◎募集締切

2025年12月31日（当日消印有効）

◎応募資格

資格問わず。

◎投稿規定・注意事項

1. 作品は応募者本人が2025年以内に撮影した愛媛県内の景観写真に限ります。
2. 他で未受賞の写真に限ります。
3. 投稿作品の著作権は、撮影者に帰属されますが、ご応募いただいた写真は、ご本人に通知なく、広報宣伝、展示等の目的で、新聞、雑誌、テレビ、インターネットWEBサイトなどに掲載の他、各種印刷物、写真展等で使用することがあります。
4. おひとりでも何点でも投稿できます。
5. 肖像権のある被写体を主題にする場合は被写体の承諾を得た上で投稿してください。また、公序良俗に反する写真、他人のプライバシーを侵害する写真が投稿された場合は無効とさせていただきます。
6. 二重投稿による入賞が発覚した場合は入賞を取り消す場合があります。
7. 写真掲載に関して第三者との間で紛争が生じた場合は、投稿者自らの責任と費用により当該紛争を解決するものとします。

◎応募方法

A4サイズのプリントを郵送もしくは300dpiで3MB程度のjpgデータをメールにて提出してください。

応募時には住所、氏名、年齢、撮影場所、撮影日時、作品タイトルをご記載ください。またメール提出の場合は任意で2L版のプリントを郵送してください。当方にてプリント時（A4サイズ）の参考にさせていただきます。

メールアドレス：ehimekeikan@gmail.com

（専用メール）

郵送先：〒790-0002 松山市二番町4丁目1-5 2階
（公社）愛媛県建築士会 写真コンテスト係

◎入賞について

会長賞 10,000円の図書カード

副会長賞(2本) 5,000円の図書カード

審査委員長賞 5,000円の図書カード

文化財・まちづくり委員会賞

5,000円の図書カード

入賞(5本) 2,000円の図書カード

◎選考審査委員

北村 徹 日本建築写真家協会正会員

尾藤 淳一 愛媛県建築士会会長

松山 清 愛媛県建築士会副会長

花岡 直樹 愛媛県建築士会副会長

文化財・まちづくり委員会

◎選考結果

選考は2026年1月～2月上旬の間に行います。

入賞した作品は、応募されたメールアドレスへお知らせするとともに当法人公式ホームページにおいてご報告させていただきます。

◎作品展示会

入賞作品及び優秀な応募作品を松山城ロープウェイ東雲口駅舎2階 観光交流ホールにて2026年3月14日(土)～3月20日(金、祝日)の間展示いたします。

◎授賞式について

2026年3月14日 展示会場にて授賞式を行い、入賞記念品をお渡しします。時間については受賞者に後日連絡いたします。

※やむを得ない理由で授賞式に来られない方は、2026年5月29日までに愛媛県建築士会事務局まで受賞者本人が取りに来てください。（営業時間 土日祝日除く平日AM8:30～PM5:00）

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和7年 9月号(166号) 令和7年7月24日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWord様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので、予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にまで、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛 FAX 089-948-0061

編集後記

開催されて間もない大阪万博に行ってみりました。

『多様でありながら、ひとつ』という会場デザインコンセプトの下、SDGs(持続可能な開発目標)達成につながる、意欲的かつ大胆な提案により、木造の「大屋根リング」は、建築家・藤本壮介氏が設計を担当、若手建築家が設計を手掛けた「博覧会施設」「休憩所」「ギャラリー」「展示施設」「ポップアップステージ」「サテライトスタジオ」「トイレ」は、個性豊かで魅力的な会場を創出していました。

その中で象徴する建築物として注目を集めているのが「大屋根リング」です。この巨大なリングは、「多様でありながら、ひとつ」という理念を体現しており、世界中から訪れる人々に一体感を提供することを目指していました。そして、特筆すべきはそのスケール。大屋根リングの外径は約675メートル、内径は約615メートルに及びます。このサイズは木造建築の中では世界屈指であり、その数字を聞いたとき、想像を超えるスケール感に圧倒されたのをよく覚えています。リングの屋根上を歩きましたが、相当な距離があり、まるで一つの街を取り囲んでいるかのような錯覚でした。この壮大さが、大阪・関西万博のビジョンを一層際立たせていると思いました。

そして、この大規模なリングは、長年にわたる技術の蓄積と挑戦の積み重ねが、ここに結実し、日本古来の建築技術である貫接合が応用され、耐震性と美しさを兼ね備え実現していました。また、伝統と革新が見事に融合している様子は、まさに日本建築の底力を感じさせられ、最新の耐震工学と融合することで、過去から未来への技術継承が行われていることにも心を打たれました。このような工法の選択は、単なる技術的選択に留まらず、日本の文化的アイデンティティを世界に示すものだと思います。

今回は建物を中心に会場を回りましたが、次回は万博を満喫するため2~3回は会場に赴きたいと思います。

〈いしづち〉2025/7

令和7年7月発行

発行人 会長 尾藤 淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館 2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アmano印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 / 大平 将司 副委員長 / 渡邊 道彦

編集委員 / 一之瀬 佳緒理 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉